

◆特集◆ 合同会社のしろ家守舎

今回は、合同会社のしろ家守舎^{やしろや}を取材しました。

設立の経緯と目的

県の「動き出す、商店街プロジェクト」に参加していた若手事業者の湊哲一さん、阿部誠さん、田中秀範さん、鈴木隆宏さんの4人が意気投合。能代駅前商店街を活性化し、最終的にはシャッターを全部開けることを目的として、合同会社のしろ家守舎（以下、「家守舎」）を設立しました。

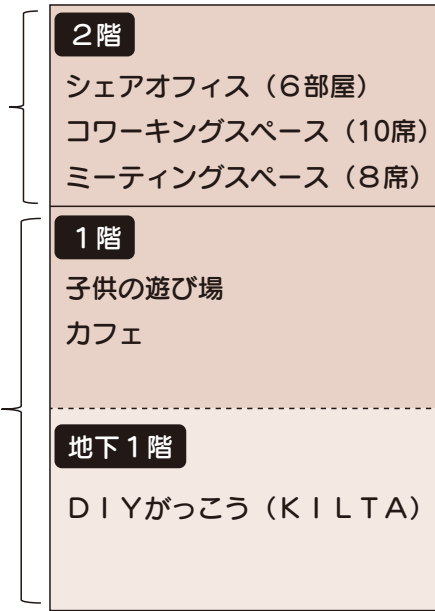
旧丸彦商店の空き店舗をリノベーションした「マルヒコビルディング」を拠点に、起業者を呼び込むとともに、人とのつながりを増やす取組を行いながら、周辺のにぎわいを生み出す「マルヒコプロジェクト」を進めています。



マルヒコビルディング
2階の様子



今後の展開
マルヒコビルディングは地上2階、地下1階の建物で、各階の構成は左のとおりとなっています。



4/1 開業済

令和3年秋
開業予定

1階は、開業するまで家守舎の活動を周知するためのギャラリーとして使用するなど、市民へ開放する予定。マルヒコビルディング以外の取組では、空き家・空き店舗の所有者と事業をやりたい方とのマッチングの活動や、小商いをやりたい人への協力、支援なども視野に入れているとのことでした。

また、今後の課題としては、活動資金を生む仕組みづくりや、十分な駐車台数の確保、建物の管理者の選任などがあるとのことでした。

取材を終えて

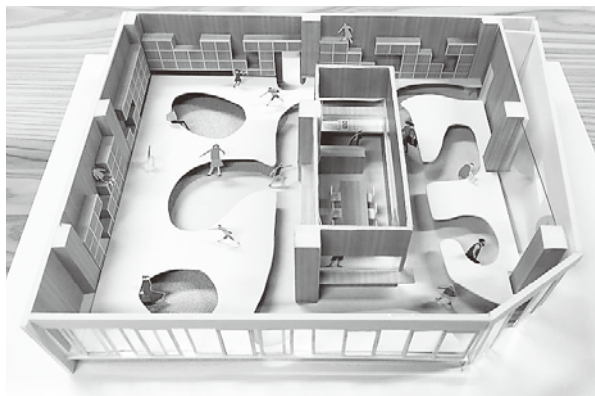
家守舎の皆さんは、3月に行ったDIYの体験会の参加者、今後開業予定のDIYがっこうに参加する事業者や地元若者が、空き店舗を自身で改装できる技術を身につけ、商店街のシャッターを開けてほしいと願っていました。

能代駅前の最近の動向を見れば、ヨガスタジオや、旧丸彦商店の隣にフォトスタジオが開業し、ジーンズショップも開業予定のほか、学生による旧鴻文堂の活用など、人が集まる流れができつつあると感じます。

駅前商店街の大家さんもかなり協力的とのことでした。

周りの人もどんどん巻き込んでいく家守舎の今後の活動が楽しみです。

取材：小林秀彦 大高翔 落合康友



1階の完成イメージ